令和８年度青梅市親子ふれあい事業ボッチャ大会実施規則

１　本大会では、ボッチャのチーム戦のみ行う。
２　コートサイズはバドミントンコートを使用した特設コートとする。
３　１チーム３名編成とし、選手登録は６名まで可とする。競技補助者は１チームに１名配置することができるが、選手登録はできない。
４　急用・体調不良等により選手が揃わない場合２名による試合を認める（この場合６球のうち１人が３球ずつ投球する）。ただし、各ブロックの１位になっても決勝トーナメントには進めない。
５　予選リーグは１ゲーム２エンド制、決勝トーナメントは１ゲーム４エンド制とし、全エンド終了時に合計得点の高いチームが勝者となる。
　予選リーグは勝数が多いチームを上位とし、勝数が同数の場合は得失点差で順位を決する。決勝トーナメントは第３エンド終了時に７点以上の差がある場合、勝敗が決する（以後のエンドは行わない）。合計点が同点の場合は特設ルールによるタイブレイク（以下「特設タイブレイク」という。）を行い、勝敗を決する。
６　１エンドの持ち時間は定めないが、スムーズな進行に協力すること。
７　第１エンドの先攻（赤ボール）・後攻（青ボール）は、代表者のジャンケンで勝ったチームが選ぶ権利を得る。
８　エンドの始めは、先攻（赤）チームの第一投球者がジャックボール（以下「ジャック」という。）を投球する。ジャックが無効ゾーンに止まるかコート外に出た場合は後攻（青）チームにジャック投球の権利が移る。以降ジャックが有効となるまで同様とする。試合中、ジャックがコート外に出た場合は、ジャックはターゲットボックス中央に置きなおす。
９　１エンド終了ごとに、先攻・後攻を交代する。
10　選手交代は１エンドごとに認める。
11　特設タイブレイクは、ジャックをターゲットボックス中央に置き、各チーム代表１人が１回ずつ投げて、最もジャックに近づけたチームの勝利とする。投球するボックスおよびボールの色は、最終エンドのまま変更せず行う（ボックスは中央３番４番を使用）が、投球順は最終投球者のチームを先攻とする。ジャックとの距離を計測し、ボールがそれぞれ同距離の場合は、投球順を変えずに、勝敗が決するまで特設タイブレイクを行う。なお、タイブレイクはゲームの勝敗をつけるものであり、合計点に加算しない。

12　試合前練習投球は１人２球まで、ただし初対戦のみとする。
13　手袋・グローブは着用不可とする。使用しなければならない場合は、
　大会申請時に事務局に知らせること。
14　その他の規則は日本ボッチャ協会競技規則を適用する。
15　試合中は必ず審判の指示に従うこと。

以　上